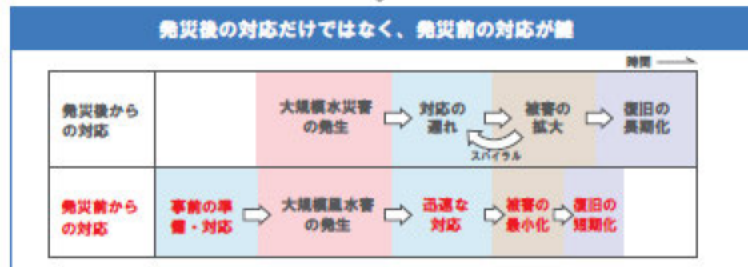


三重県版タイムラインの概要(1/2)

1 三重県版タイムライン策定の目的

タイムラインとは、発災前から予測できる風水害である台風に対し、「いつ、誰が、何をするか」を時系列で整理したもので事前対策として被害の最小化へつなげることを目的としています。

県庁内の組織を超えた取組を行うとともに、関係機関とも連携を図り、一体的に災害対策を行うことで防災・減災をめざします。



2 三重県版タイムラインの基本的な考え方

(1) 対象とする災害

本県に影響を及ぼす可能性がある台風

※事前の予測や適用範囲の判断が難しい局地的大雨や前線のみによる大雨は対象としません。

(2) 想定される運用時間 (いつ)

概ね台風到達5日前から1日後
(原則、県災害対策本部廃止まで)

(3) 運用主体 (誰が)

三重県 ⇒ 県災害対策本部における各部隊

- ①総括部隊 ②社会基盤対策部隊 ③保健医療部隊
④救援物資部隊 ⑤被災者支援部隊
⑥生活・経済再建支援部隊



関係機関 ⇒ 各部隊が災害対応上関係する機関
(総括部隊の例：津地方気象台、国土交通省、警察、自衛隊など)

【県災害対策本部】

《総括部隊》

部隊の総括、情報分析・企画立案等

《社会基盤対策部隊》

公共土木施設・農林水産施設等の応急対策等

《保健医療部隊》

医療活動支援、保健衛生対策等

《救援物資部隊》

物資のニーズ把握、物資の調達等

《被災者支援部隊》

要配慮者対策、ボランティア対策等

《生活・経済再建支援部隊》

県内企業の災害対策、災害義援金関係等

【関係機関】

《総括部隊》

津地方気象台・県内市町・消防・警察・自衛隊等

《社会基盤対策部隊》

国土交通省・建設業協会

《保健医療部隊》

日本赤十字社・三重県医師会・三重県歯科医師会等

《救援物資部隊》

中部運輸局・三重県トラック協会等

《被災者支援部隊》

日本水道協会・みえ災害ボランティア支援センター等

《生活・経済再建支援部隊》

三重県社会福祉協議会等

(4) 行動項目 (何をするか)

台風が本県に接近するまでに行うべき事前対策を中心に洗い出し、行動項目として整理しています。

(5) タイムラインレベル

台風の接近状況や県災害対策本部の体制に準拠したタイムラインレベルを設定し、各レベルに応じて整理した行動項目を着実に取り組みます。

タイムラインレベル	想定される状況	目安となる時間軸
タイムラインレベル1	台風の接近	5日前～2日前
タイムラインレベル2	台風が本土上陸、大雨・洪水注意報など	2日前～1日前
タイムラインレベル3	台風が本県接近、大雨・洪水警報など	1日前～当日
タイムラインレベル4	台風が本県通過、土砂災害警戒情報など	当日
タイムラインレベル5	災害発生（河川氾濫、土砂災害など）、特別警報など	当日
タイムラインレベル0	警報の解除、避難情報の解除	当日～1日後

三重県版タイムラインの概要(2/2)

3 三重県版タイムラインの検討

(1) 三重県版タイムラインの検討体制

県庁内のワーキンググループや「**県防災施策に関する研究会**」※1で、それぞれの部隊で使用するタイムラインの内容について、検討を図りました。

先行して検討を進めていた総括部隊については、**出水期(平成29年6月1日)から試行版の運用を開始**し、実際の運用を重ねながら、出水期後に検証を実施しました。

※1「**県防災施策に関する研究会**」とは

⇒平成28年9月に内閣官房まち・ひと・しごと創生本部で公表された「政府関係機関移転基本方針」に基づき、同年12月に、**県と津地方気象台との連携強化を目的**とし、県と津地方気象台が共同で設置した研究会です。

(2) 三重県版タイムラインにおける主な検討内容

① タイムライン連携会議

県と関係機関間の一層の連携強化を図るため、必要に応じて「**タイムライン連携会議**」を開催することとしました。

② ゼロ・アワー

(i) 目的と効果

タイムラインによる活動は主たる災害の発生時点となる「**ゼロ・アワー**」に至るまでに得られる「**リードタイム**」を生かし、**防災・減災行動を行うことが基本**となります。この「**リードタイム**」を把握することにより、各運用主体がどのタイミングでどのような防災行動を実施するかを整理し、**迅速かつ効率的な防災・減災行動を実施**できます。

(ii) 三重県版タイムラインにおける「ゼロ・アワー」

【ゼロ・アワー】

台風上陸や台風接近に影響した大雨等が想定される時点

【ゼロ・アワーの設定】

「ゼロ・アワー」の設定は、気象情報などをふまえ、台風の被害が危惧されるタイミングや発生しうる地域を判断し、設定した「ゼロ・アワー」については、**各運用主体との情報共有を図ります**。

③ SNS(Twitter)

県民への情報提供として、SNS(Twitter)を活用した情報配信を行い、台風の接近に伴い切迫感のある表現を用いて、**県民の皆さん一人ひとりの避難行動を促します**。

URL: <https://twitter.com/bosaimie>

アカウントユーザー名: 防災みえ (@bosaimie)



4 三重県版タイムラインの運用

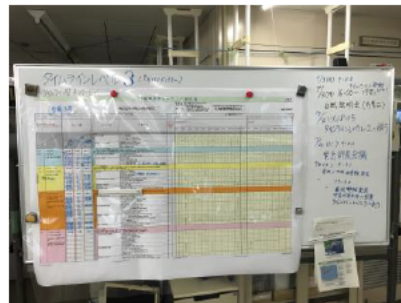
(1) 三重県版タイムラインの試行

台風第21号など延べ5回にわたって、タイムラインを試行し、事前対策を中心に整理された**行動項目を着実に実施**しました。

また、試行することで初めて得られた「気づき」を基に、**改善・充実**を図りました。

【タイムライン導入による効果】

- ・タイムラインを目の届く範囲に掲示したことで、チェックリストとして活用でき、対策の「**抜け・漏れ・落ち**」の防止に寄与。
- ・タイムライン発動やタイムラインレベル移行など、適宜情報共有することで、各運用主体間で緊密な連携を実現。
- ・試行を繰り返すことで、タイムラインの考えが職員に定着。
- ・避難情報の発令の判断に、タイムラインの動きや「**ゼロ・アワー**」を活用。(市町)



タイムラインの掲示状況



台風第21号に備えた緊急部長会議の様子

(2) 今後の展開

平成30年度以降は、すべての部隊が使用する三重県版タイムラインの**運用を開始**します。

また、毎年度、検証を実施し、三重県版タイムラインの**継続的な改善・充実**を図っていきます。

【県内市町や県地方部への展開】

・県と市町が一体となった災害対応力を更に高めていく必要があるため、県内市町や県地方部が活用するタイムラインの策定を展開していきます。

